

科目名	専門基礎分野			ディプロマ・ポリシー(DP)	DP 1 DP 4		
	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進			担当教員	外部講師 専任(基幹)教員		
	薬物療法と看護						
履修学年	1年	履修学期	後期	単位数	1	時間数	32
授業目標	1. 薬物が人体に作用する仕組みを理解する 2. 投与される薬物の薬理効果と投与量・投与方法の関係がわかる 3. 薬物体内動態とハイリスク患者の看護がわかる 4. 薬物療法における看護師の役割を理解する						
回	学習内容				方法	担当教員	
1 2 3	1) 薬物療法と看護の基礎知識 (1) 薬物の体内動態と相互作用の理解 ①くすりを理解するための体の知識(吸収、排せつ、自律神経系) (2) 薬物の剤形とその特徴に応じた教育指導の理解 ①与薬における看護師の役割、取り扱いと効果の観察 (3) 薬物の体内動態とハイリスク患者の看護(肝不全・腎不全)				講義 演習	外部講師	
4 5 6 7	2) 薬の正しい使用方法と観察 (1) 対象特性と薬物療法(老年・小児・妊産婦) 与薬の技術:坐薬、筋注 (2) 外来患者への与薬支援 ①本態性高血圧と診断された人への、内服開始時の看護 ②医薬品添付文書、高血圧ガイドラインの活用 ③Ca拮抗剤の服用と食事指導の意味を理解する (3) 薬物体内動態とハイリスク患者の看護 ①狭心症発作と診断された人への、舌下錠服用時の看護 ②入院患者への与薬支援 ③ステロイドパルス療法 ④抗癌剤・化学療法				講義 演習		
8	(4) 対象に応じた自己管理 ①妊婦が薬を服用することへの心理的援助 ②胎児への影響と危険度と使用時期 ③服薬行動に向けた指導				講義		
9 10 11 12	3) 「服薬支援と与薬」パフォーマンス課題 (1) 社会復帰に向けた自己管理、在宅での服薬管理 (2) 事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物管理について ①事例1, 2, 3 各事例の指導案作成 事例1「パーキンソン病」(内服効果を感じられない60歳男性) 事例2「統合失調症」(病識の低い20代男性) 事例3「子供と家族」(在宅でのインスリン管理学童と保護者) ・与薬の技術:皮下注				講義 演習	専任(基幹)教員	
13・14	②事例1, 2, 3 いずれか一つをグループ作成				演習		
15	③事例1, 2, 3 薬物管理のロールプレイ検討会				演習		
16	(3) 薬物療法における看護師の役割				講義		
	試験				試験		
評価規準 評価方法	演習・パフォーマンス課題・筆記試験 100点評価						
テキスト および 参考文献	専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学(医学書院) 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)						
履修上の注 意点							